

＜日商簿記1級工業簿記ミニテスト13＞標準原価計算の仕損

＜平成18年公認会計士短答式問題＞

問題9

製品Aを製造している当社では全部標準原価計算を採用し、直接材料についてのみ購入時に材料受入価格差異を把握する修正パーシャル・プランを採用している。次の〔資料〕に基づいて、下記の仕掛品勘定に記入されるア～カのうち、選択肢に示された金額がすべて正しい組合せの番号を一つ選びなさい。

〔資料〕

1. 製品A1個当たりの標準原価カード(仕損費は含まない。)

直接材料費 @ 600円×5kg	3,000円
加工費 @1,000円×2時間	2,000円
	5,000円

2. 仕損に関するデータ

製品Aは、工程の終点で仕損が発生する。正常仕損率は完成品に対して3%であり、それを超えて発生する仕損品の原価は異常仕損費とする。正常仕損費は良品にのみ負担させ、負担のさせ方は理論的に処理するものとする。なお、仕損品には処分価値はない。

3. 当月の生産データ

月初仕掛品	300個	(0.5)
当月投入	2,000	
合計	2,300個	
仕損品	100	
月末仕掛品	200	(0.7)
完成品	2,000個	

(注) 材料は工程の始点で投入される。

()内の数値は、加工進捗度を示している。

4. 当月の実際原価等データ

材料実際購入高	7,930,000円(実際購入量13,000kg)
材料実際消費量	10,400kg
実際加工費	4,735,940円

仕 掛 品

前月繰越 (ア)	製 品 (ウ)
直接材料費 (イ)	異常仕損費 (エ)
加工費 ()	材料消費数量差異 (オ)
()	加工費差異 (カ)
()	次月繰越 ()
()	()

<考え方>

原価標準→5,000円の製品を完成させるために3%の仕損費を負担させる
(仕損費=仕損品原価-評価額/評価額)
(終点発生なので材料費も加工費も100%の進捗率で計算)

異常仕損費には正常仕損費を負担させない

正常仕損数の算定→2,000×3%=60個 ∴異常仕損数=100個-60個

製品の計算→仕損費を加えた金額で計算

異常仕損費の計算→仕損費は加えないで計算

月末・月初は通常通り計算

修正パーシャルプランなので数量差異と加工費差異のみ仕掛品で計上

<解答>

前月繰越	(1,200,000)	製 品	(10,300,000)
直接材料費	(6,240,000)	異常仕損費	(200,000)
加工費	(4,735,940)	材料消費数量差異	(240,000)
		加工費差異	(555,940)
		次月繰越	(880,000)
	()		()